

〒891-1393 鹿児島市宮之浦町862
TEL:099 - 294 - 2311
FAX:099 - 294 - 2309
<http://www.edu.pref.kagoshima.jp/>

かごしま教育ホットライン24

0120-783-574 (フリーダイヤル)
099-294-2200 (直通)
0570-0-78310 (全国統一ダイヤル)

大原台

平成27年度 調査研究発表会 (御案内)

<全体研究主題>

生きる力を豊かに育てる学校教育の創造

期日：平成28年1月29日(金)

時間：9:30～16:35

場所：鹿児島県総合教育センター ～学びの¹歩，還元の²歩～
(大原台講堂 外)

新しい自分発見¹教育センターで...

9:00 9:30 12:00 13:00 16:30 16:35

全体会

分科会

受付

開会行事

調査研究の概要説明

研究発表Ⅰ
(情報教育研修課)

研究発表Ⅱ
(特別支援教育研修課)

調査報告
(教職研修課)

昼食・休憩

研究発表

事例発表

ワークシヨップ型
研究協議

閉会行事

調査研究発表会に関する問合せ先

鹿児島県総合教育センター 企画課

TEL 099-294-2312

FAX 099-294-2374

E-mail kikaku@edu.pref.kagoshima.jp



【申込締切】

- ・市町村立学校から市町村教育委員会へ
…市町村教育委員会が指定した期日
- ・市町村教育委員会から教育事務所へ
…各教育事務所が指定した期日
- ・鹿児島市、県立学校、教育事務所等から教育センターへ
…12月11日(金)



調査研究発表会案内

研究発表Ⅰ (情報教育研修課)

<研究主題>

情報活用能力の育成に関する研究Ⅱ
 一言語活動の充実に資するICT活用の在り方

情報活用能力の育成を目指す学習過程「しらべる」、「まとめる」、「いかす」場面ごとのICT活用と言語活動の充実にの関連、言語活動の充実に役立つICT活用の在り方について発表します。

研究発表Ⅰの助言者

鹿児島大学 名誉教授 園屋 高志 先生

研究発表Ⅱ (特別支援教育研修課)

<研究主題>

特別支援学校における一貫性・系統性のある指導の在り方に関する研究Ⅱ
 一知的障害のある児童生徒の指導目標の設定及び指導内容の選択・組織の工夫

指導者間で指導内容・指導方法等を共有し、発達の段階や学習の履歴を踏まえた一貫性・系統性のある指導の在り方について発表します。

研究発表Ⅱの助言者

鹿児島大学教育学部 准教授 片岡 美華 先生

調査報告 (教職研修課)

<研究主題>

教職員のニーズを踏まえた効果的・効率的な研修の構築に関する研究Ⅱ

教職員の資質・能力の向上及び「学び続ける教師」としての意識の高揚を目指して、教育的ニーズや教育の動向等に関する情報を踏まえ、より効果的・効率的な研修について報告します。

平成27年度 調査研究発表会 分科会

第1分科会	第2分科会	第3分科会	第4分科会	第5分科会
国語科	社会・地歴・公民科	算数・数学科	理科	外国語活動, 外国語科

<研究主題> (教科教育研修課)

課題を解決するために必要な資質・能力を育成する授業に関する研究
 一主体的・協働的に学ぶ学習の工夫を通して一

各教科に分かれて、校種や各教科等の特性を踏まえた主体的・協働的な学習活動の在り方及びその手立てについて協議します。

第6分科会

情報教育

午前の発表に引き続き、言語活動の充実に関連したICT活用の在り方、学校のICT活用の在り方、学校のICT環境をどう生かすかという視点による児童生徒の情報活用能力の育成について、デジタルノートを活用した協議を行います。

第7分科会

特別支援教育

午前の発表に引き続き、チェックリスト等を活用した実態把握、具体的な指導目標の設定、全体指導計画や個別の指導計画を踏まえた指導内容の選択・組織、改善につながる評価の工夫等について協議します。

第8分科会

教育相談

<研究主題> (教育相談課)

児童生徒の豊かな人間関係づくりに関する研究
 一SNSの利用による友人関係への影響に着目して一

SNSの利用が友人関係に及ぼす影響について、その現状と課題を明らかにするとともに、豊かな人間関係づくりの指導・援助の在り方について協議します。

教育センターでの学びを還元の一歩に！

長期研修者の募集

1 長期研修の趣旨

各教科等に関する教育実践上の課題を踏まえた研究主題について研究に取り組みせるとともに、教育全般について研修等を実施し、教員としての資質を高め、本県教育の充実・発展に寄与する人材の育成を図る。

2 研修期間

平成28年4月1日から平成29年3月31日まで
 (1年間)

3 募集人員 (予定)

11人 (小学校5人, 中学校3人, 高等学校2人, 特別支援学校1人)



中間発表会の様子

高等学校情報教育継続研修者の募集

1 継続研修の趣旨

急速に進展する情報化に対応した情報教育を推進するために、通年により継続的に専門的研修を行い、最新の情報や技術の習得を図ることにより、情報教育の充実に資する。

2 研修期間

平成28年5月から平成29年2月までの期間における金曜日 (年間20回の実施)

3 募集人員 (予定)

11人 (県立・市立)

普通教科担当者 **大歓迎!!**



動画編集研修のための撮影

奄美市立宇宿小学校

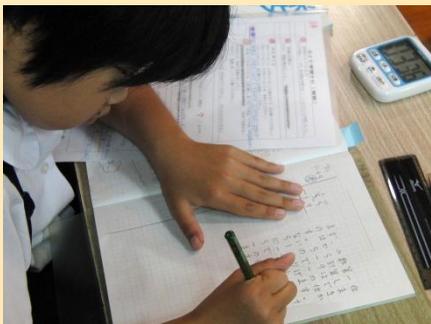
平成27年10月23日(金) 中間公開研究会

研究主題

既習事項を生かし、自ら考え、仲間とともに新たな学びを創造する子どもの育成

— 学年別複式算数科学習指導の充実を目指して—

公開当日の様子



計算の仕方を文章で順序立てて書くことで、思考の様子が分かる算数の授業



鹿児島市立吉田南中学校

平成27年10月28日(水)

研究主題

「思考力・判断力・表現力」を育成する学習指導
— 「判断基準」の設定による指導法の改善Ⅲ—

公開当日の様子



音の大小や高低による波形の特徴を視覚的に確かめた理科の授業



児童生徒の学びの姿から、次の実践に！ 研究提携校公開(報告)

鹿児島県立松陽高等学校

平成27年11月4日(水)

研究主題

思考力・判断力・表現力の効果的な育成を目指した授業改善

— アクティブ・ラーニングの実践を通して—

公開当日の様子



一人一人の考えを出し合い、グループの意見としてまとめていた国語の授業



鹿児島市立山下小学校

平成27年11月13日(金)

研究主題

問いをもち、主体的に学ぶ子どもを育てる授業づくりⅡ

— 自己の変容を実感できる学習指導—

公開当日の様子



作戦ボードやタブレット端末を活用して作戦のポイントを確認し合った体育の授業



お知らせ

鹿児島県立出水養護学校

研究主題

つながりが感じられる授業づくり
— 子どもが「やりたい」、「やればできる」、「やりがい」を感じる授業実践を通して—

平成28年2月10日(水)開催!

多くの御参加をお待ちしています。

あっ！これもまた使える！指導資料を発行しました(10月発行)

教科等名(教科等番号) 対象校種	標 題
国語(第134号) 小・特支	思考力・判断力・表現力を育成する小学校国語科「読むこと」の授業改善 - 「学びの羅針盤」, 「学力向上支援Webシステム」を活用した授業展開 -
社会(第127号) 小・特支	社会的現象の意味について考える力を育成する小学校社会科の授業改善
数学(第142号) 高・特支	「学び直し」を生かした複素数平面の指導法
理科(第302号) 小・特支	推論する能力を育成する小学校理科学習指導の工夫
理科(第303号) 中・特支	「地球と宇宙」単元における科学的な思考力, 表現力を育成する指導の工夫
理科(物理)(第304号) 小・中・高・特支	小・中・高等学校のつながりを考慮した, 力のつり合いの指導の工夫
美術, 芸術(美術)(第42号) 小・中・高・特支	鑑賞の能力を高める指導法の工夫
外国語(英語)(第79号) 高・特支	読解における多様な指導の在り方 - 内容理解の視点から -
外国語(英語)(第80号) 高・特支	コミュニケーションにつながる文法指導
道徳(第31号) 小・中・特支	学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育 - 各教科等で行う道徳教育の進め方 -
幼児教育(第18号) 幼・小・特支	幼児期の思考力の芽生えを育む教師の関わり
情報教育(第136号) 小・中・高・特支	情報モラルの指導 - スマートフォンを安心・安全に利用するために -
情報教育(第137号) 高・特支	高等学校における知的財産教育の推進
特別支援教育(第181号) 小・中・特支	障害が重度で重複している児童生徒に対する自立活動の指導
特別支援教育(第182号) 小・中・高・特支	認知の特性に応じた漢字の読み書きに関する指導・支援の在り方
特別支援教育(第183号) 幼・小・中・特支	特別支援学級における生活単元学習の進め方の工夫
生徒指導(第67号) 小・中・高・特支	規範意識を内面化させる指導の工夫 - いじめを行った児童生徒への対応 -
教育相談(第135号) 小・中・高・特支	否定的な自動思考を繰り返す児童生徒への認知行動療法のアプローチ



当センターのWebサイトには平成13年度以降の指導資料を掲載しています。明日からの実践にすぐに役立つこの指導資料を, 是非活用してください。

お知らせ

耐震補強工事に伴う施設利用について

平成27年10月から平成28年3月末の間, 当センター施設の耐震補強工事を行います。一部立ち入ることができない施設等があり, また, 研修中に工事音がする場合があります。皆様には当分の間, 御迷惑をお掛けしますが, 御理解をお願いいたします。

一部閉鎖しています

研修で学んだことを子供へ還元することは, 子供が可能性へ挑戦するための土台作りでもある。そのために, 総合教育センターは教職員をバックアップし, 奇跡の裏付けを支援する準備は出来ている。チーム鹿児島の一員として, 教職員の皆さんからの要請をお待ちしている。

今年, 高校野球の全国大会が始まって百周年である。この百年の間に, 高校球児の熱戦が幾多もあつたが, 心に残るのは, 昭和四十四年夏の甲子園「松山商業対三沢高校」の決勝戦である。延長十八回無得点で引き分け再試合, 井上投手と太田投手の緊迫した投げ合い, 子供心に手に汗握り感動したことを覚えている。

井上投手は, 延長で一死満塁ノー・スリーという絶体絶命のピンチを無失点で押さえ, 翌日再試合の結果, 松山商業が優勝した。この時のことを後にプロ入りした太田投手との対談で「どんなに集中力を高めて潜在能力を引き出そうとしたって練習でやっていないものまでは出来ない」(文藝春秋 高校野球一〇〇年の物語)と述べている。試合を見ている人には奇跡に見えても, 投げている投手には, そこに必ず投げられるだけの練習を積んできた自信という裏付けがあった。才能があつても, 奇跡に値する努力をしていなければ, ここ一番で力を発揮することはできない。

今年, ラグビーのワールドカップでも, 日本代表チームが南アフリカを破り, 三勝するという歴史的快挙を成し遂げた。これも番狂わせではなく, 過酷な練習と周到なデータ分析の裏付けがあったからこそできたことである。

スポーツに限らず, 子供の可能性は無限大である。その可能性を信じて, 誰もが様々な挑戦ができるよう土台を準備し, 一歩踏み出せるようそつと背中を押してあげることが大人の役割ではないかと思う。

思い

「奇跡の裏付け」

次長 大山 涼子